

華の都 クリスマス会

平成 20 年 12 月 25 日（木）に華の都クリニックの入院患者様・通所リハビリテーション利用者様を対象に「クリスマス会」が開かれました。

<プログラム>

1. 保育室の子供たちによる慰問
2. 職員によるハンドベル合奏
3. ○×クイズ

その模様を以下に掲載致します。











今回の「華の都 クリスマス会」において企画・運営を担当した職員を代表として、2名の報告記事を掲載致します。

【増尾君枝 ； 介護職員】

保育室の園児達のお遊戯を見ていると心が和みます。

私にも、3歳になる孫がおり、園児達のお遊戯を鑑賞していると思わず孫の顔が思い浮かびました。

利用者様、入院患者様の皆様も、ご自身の孫あるいはひ孫達の姿を思い浮かべながら鑑賞されていた事でしょう。

皆様ニコニコと、とても穏やかな笑顔で生き生きした表情をされていた様に感じました。

ハンドベルの音色は、何時聞いても心が和み心地よいものですね。

今回は、鑑賞する側にいましたので、自分自身冷静な気持ちで聞くことができ、演奏されている職員の人達の気持ちをよく感じたのでしょね。

いま自分の出番でもないのに、思わずハンドベルを鳴らそうとしてしまい、眉をひそめ苦

笑いをされている方もいました。

その気持ち、私にも経験があるのでよく分かります。

でも、皆さんの一生懸命演奏されている姿が印象的で大変素晴らしかったと思います。

○×クイズでは、多くの皆様に楽しんで参加して貰えたと思います。

よく見ていると、解答者の「答えは“×”です！」の声を聞いた途端に、最初は“○”を出しているのに、あわてて“×”にひっくり返し、すました顔をされている方もおいでました。

正答者には景品が贈呈されるので、欲がでるのでしょうかね。

私の気持ちとしては、見て見ぬふりは出来ませんでした。

今回のクリスマス会は、午前中までに通所を利用されている皆様は参加できても、午後からの方々は、もう終わってしまった後で、ちょっと申し訳ない気持ちでした。次回からは、当日の通所を利用いただく皆様全員が参加できるよい案はないものかと思います。

【平岡優太（写真5段目のトナカイ？） ; 介護職員】

今回、クリスマス会をして良かったと思った事は、子供達のお遊戯の時に、入院患者様・利用者様方の顔がとても豊かになっていた事です。子供達と触れ合う事によって利用者様方の元気の素になっていただけた様に思います。また全体的にも利用者様方に楽しんでいただけた気がします。

反省すべきところは、私では、準備の期間が短く、打ち合わせが不十分だった点と、本番で緊張し、大きな声で司会ができず、グダグダになってしまったところです。

今回は、もっと時間をかけて準備をし、よりよいものにしていきたいと思います。